

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

分担研究報告書

「がん診断後から離職までの時間に対する要因分析（横断的観察研究）」

研究代表者 高橋 都

国立研究開発法人国立がん研究センター

がん対策情報センターがんサバイバーシップ支援部長

研究要旨：

【目的】本研究の目的は、医療スタッフが行う就労支援プログラム開発のための基礎資料を得ることとし、がん診断後から離職までの時間に対する関連要因を明らかにすることである。

【方法】国立がん研究センター中央病院，愛知がんセンター中央病院，四国がんセンターの3施設で，アンケート調査を実施した。これらの協力施設のロビー，あるいは診療科窓口で協力依頼を行った。アンケート回収数は合計で1,483部であった（回収率91.7%）。適格基準に見合う916名分のデータを有効回答として解析を実施した。

【結果および考察】単変量解析の結果，がん診断後から離職までの時間には男女間で有意な差異が認められたため，これ以降の解析を男女別を実施した。男性において，がん診断後から離職までの時間に有意差が認められた変数は，学歴，診断時年齢，病期，化学療法，診断時の雇用形態，診断当時の職場での産業保健スタッフの有無であった。一方，女性では，学歴，病期，手術，化学療法，診断時の雇用形態，診断当時の職場での産業保健スタッフの有無であった。それら有意差の認められた変数を用いて，男女別に多変量解析を実施した。その結果，男性において，がん診断後から離職までの時間に有意差が認められた変数は，化学療法，診断時雇用形態であった。一方，女性では，手術，化学療法，診断時の雇用形態，診断当時の職場での産業保健スタッフの有無であった。

本研究では，がん診断後から離職までの時間に対する男女共通の関連要因，女性に特化した関連要因が示された。がん診断後から離職までの時間に関連する要因は，がん診断後の離職予防を目的とした臨床現場でのアセスメント項目とし，院内外の資源につなげることが期待される。

分担研究者

青儀健二郎 四国がんセンター 臨床研究推進部長
宮下光令 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学教授

研究協力者

荒井保明 国立がん研究センター中央病院放射線診断科長
堀尾芳嗣 愛知県がんセンター中央病院外来部長 地域医療連携・相談支援センター長
船崎初美 愛知県がんセンター中央病院外来 地域医療連携・相談支援センター
宮内一恵 四国がんセンター看護部
土屋雅子 国立がん研究センターがん対策情報センターがんサバイバーシップ支援部研究員

A. 研究目的

わが国のがん患者の3人に1人が20歳～64歳の就労可能年齢とされ、がんの通院治療を受けている就労者は約33万人といわれている。がんの診断と治療は、患者の身体・心理社会的側面にも大きな影響を及ぼすが、中でも就労問題は、患者やその家族の経済的な問題へと発展する。

わが国のがんに罹患した就労者の24%、その家族の28%が、診断時に在職していた職場を退職しており、50%近くの者の個人収入と世帯収入が減少したという報告がある。さらに、就労問題は、人々や実社会とのつながりや生きがいといったその人なりの「生き方」そのものへの問題をも包含するため、効果的な就労支援策の開発は急務といえる。

国外の先行研究によると、がん治療と仕事の両立に影響を与える要因は、がん種や年齢等の個人属性、身体的・認知的要因、抑うつやソーシャルサポート等の心理社会的要因、職場環境等とされる。また、国外における医療施設での介入研究として、大腸がん患者を対象とした、仕事時の症状管理、雇用主とのコミュニケーション、治療中や治療後の作業性に関する情報提供（冊子配布）と個別相談の実施、乳がん患者を対象とした、ケースマネージャーによる電話でのニーズアセスメントと職業リハビリテーションへの紹介、婦人科がんや乳がん患者を対象にした、患者教育と支援、および主治医と産業医のコミュニケーションの促進の実施等が散見される。

しかし、これらの介入に対して患者や医療施設は好意的であるものの、いずれの研究においても、職場での作業性、復職までの日数や復職率に、介入の効果は認められていない。加えて、先述の介入研究はイギリスとオランダで行われており、病気休暇等の制度がわが国とは異なる。従って、わが国での研究知見の蓄積とわが国独自の就労支援プログラムの開発が必要である。

そこで、本研究では、がん診断時に就労していたがん患者を対象として、がん診断後から離職時までの時間に対する関連要因を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

1. 適格基準と除外基準

本研究の適格基準は、次の4つ、協力施設の外来を受診する再来患者、がん診断時に就労していた者、調査時に20歳以上の男女、日本語の読み書きに支障がない者であった。除外基準は、明らかに体調不良でアンケートへの記入が困難と考えられる者であった。

2. 手順

平成27年10月～平成27年12月の間に、国立がん研究センター中央病院、愛知県がんセンター中央病院、四国がんセンターの3施設で、アンケート調査を実施した。これらの協力施設のロビーあるいは診療科窓口で、再来患者に対して協力依頼を行った。その際、がん診断時の就労の有無を口頭で確認し、アンケート一式を手渡した。患者には、診察の待ち時間などにアンケートを記入し、施設内に設置された回収箱にその日のうちに投函するよう依頼した。

3. 調査項目

アンケート（資料1）には、以下の項目を含む。

1) 対象者全員への共通質問

属性に関する項目（生まれた年と月、性別、現在の職業、学歴、がん診断時の職業と企業規模（従業員数）、診断時の扶養家族の有無、がんの診断名と診断年と月、治療法、病気、再発の有無）

がん診断後の仕事（働き方）の悩みに関する項目（仕事に対する心配の有無、仕事の悩みに関する医療スタッフによるアセスメントの有無、アセスメント実施スタッフ、医療スタッフへの相談行動の有無、相談の役立ち度；職場関係者への病気開示（病気について周りの人々に話すこと）、病気開示の役立ち度；職場の産業保健スタッフの有無、職場の産業保健スタッフへの相談行動の有無、相談の役立ち度）

診断時からの年収の変化と仕事の変化に関する項目

公的支援制度に関する項目（高額療養費制度、傷病手当金制度、医療費控除の認知度と利用度、それらの情報提供源）

協力施設の就労支援サービスに関する項目（既存の個別相談サービスの認知度と利用度、個別相談サービスの利用ニーズ）

がん診断から復職までの時期別による、情報支援ニーズに関する項目

がんの治療と仕事の両立に関する現在の困りごとおよび治療と仕事の両立の定義（自由記述）

2) 退職者への限定質問

退職に関する質問（退職した年と月、退職のタイミング（病気や治療の段階との関連）、退職理由、退職に至るプロセスに対する現在の自己評価）

< 倫理面への配慮 >

各協力施設の倫理審査委員会の承認および所属長の許可後に、本調査を実施した。患者への説明は、本研究の趣旨と方法、自由参加の権利、個人情報とプライバシーの保護、参加の有無に関わらず通常の

診療・看護を同等に受けること、データの取り扱い等について詳述した文書で行った。アンケートは無記名とし、回収箱への投函をもって、本研究への参加に同意したものをみなした。

C. 研究結果

3施設合計で、1,618部配布し、回収数は1,483部であった（回収率91.7%）。本研究の適格基準を満たす916名を有効回答とし、統計解析を実施した。

1. 対象者の属性

対象者の調査時の平均年齢は、56歳（±10.77）、男性は約45%であった。がんの診断時に50歳未満だった人は、約43%であった。雇用形態については、がん診断時に正社員だった者は約51%、パート・アルバイトが約24%、自営業・自由業が約20%、その他が約6%であった。

がん種は、多い順に、乳がん（26.2%）、子宮がん（12.1%）、肺がん（9.2%）、大腸がん（8.7%）、胃がん（7.8%）、前立腺がん（7.6%）等であった。治療法は、手術が約75%、化学療法が約44%、放射線治療が約31%であった。早期がんの割合は約44%、再発「あり」と回答した者は約19%であった。

2. がん診断時から離職時までの時間に関連する要因

がん診断年月から離職年月までの時間を結果変数、属性（個人・臨床）、医療スタッフによる仕事の悩みに対するアセスメントの有無、職場での病気開示、診断時に在職していた職場での産業保健スタッフの有無を説明変数として、単変量解析、および多変量解析を実施した。なお、離職をイベント、本調査時までの就労継続、およびがん以外の理由（定年など）での離職を打ち切りとした。

1) がん診断後から離職までの時間に対する性差の影響

図1に示すように、がん診断後から離職までの時間には、性別で有意な異差が認められた。男性と比較して女性の方が、がん診断時から離職までの時間が短いことが示された。

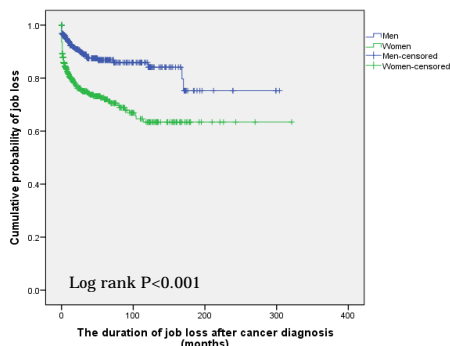


図1 離職に至るまでの推定時間（男女差）

従って、これより以降の解析に関しては、男女別に行うこととした。

2) 男性における、がん診断後から離職までの時間に関連する要因

単変量解析の結果、がん診断後から離職までの時間に関連する要因は、学歴、診断時年齢、病期、化学療法、診断時の雇用形態、診断当時の職場での産業保健スタッフの有無であった。

調査実施施設を制御変数として、多変量解析を行った結果、有意差が認められた変数は、化学療法（あり）、診断時の雇用形態（派遣・パート）であった（表1参照のこと）。

表1 多変量解析の結果：男性(N=413)

| 変数 | HR (95%CI) | P値 |
|-------------|-----------------------|-------|
| 学歴 | | |
| ≤ 高校卒 | 1.710 (0.841, 3.477) | 0.139 |
| > 高校卒 | 1 | |
| 診断時年齢 | | |
| < 50歳 | 1 | |
| ≥ 50歳 | 1.230 (0.500, 3.023) | 0.652 |
| 化学療法 | | |
| ある | 2.304 (1.159, 4.579) | 0.017 |
| なし | 1 | |
| 診断時雇用形態 | | |
| 正社員 | 1 | |
| 派遣・パート | 4.873 (1.930, 12.301) | 0.001 |
| 自営業 | 1.725 (0.764, 3.896) | 0.189 |
| 産業保健スタッフの有無 | | |
| いた | 1 | |
| いなかった | 1.785 (0.770, 4.133) | 0.177 |

HR, ハザード比; CI, 信頼区間

3) 女性における、がん診断後から離職までの時間に関連する要因

単変量解析の結果、がん診断後から離職までの時間に関連する要因は、学歴、病期、手術、化学療法、診断時の雇用形態、診断当時の職場での産業保健スタッフの有無であった。

調査実施施設を制御変数として、多変量解析を行った結果、有意差が認められた変数は、手術（なし）、化学療法（あり）、診断時の雇用形態（派遣・パート）、診断当時の職場での産業保健スタッフの有無（いなかった）であった（表2参照のこと）。

表2 多変量解析の結果：女性(N=503)

| 変数 | HR (95%CI) | P値 |
|-----------------|----------------------|-------|
| 学歴 | | |
| < 高校卒 | 1.288 (0.854, 1.941) | 0.228 |
| > 高校卒 | 1 | |
| 手術 | | |
| ある | 1 | |
| なし | 1.754 (1.063, 2.894) | 0.028 |
| 化学療法 | | |
| ある | 1.982 (1.315, 2.987) | 0.001 |
| なし | 1 | |
| 診断時雇用形態 | | |
| 正社員 | 1 | |
| 派遣・パート | 1.923 (1.259, 2.936) | 0.002 |
| 自営業 | 0.594 (0.269, 1.120) | 0.099 |
| 産業保健スタッフ の有無 | | |
| いた | 1 | |
| いなかった | 1.719 (1.030, 2.871) | 0.038 |

HR, ハザード比; CI, 信頼区間

F. 研究発表

土屋雅子, 荒井保明, 堀尾芳嗣, 船崎初美, 青儀健二郎, 宮内一恵, 高橋都: がん診断後の離職割合の経時的変化と要因分析: 多施設共同研究. 日本サイコオンコロジー学会総会抄録集: 133, 2016.

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

D. まとめ

本調査では, がんの診断時に就労していた者で調査時年齢20歳以上の男女を対象に, 3つのがん専門病院でアンケート調査を実施し, 916名分のデータを解析した。対象者の男女の割合は, 約半分ずつであったが, 対象者が罹患したがん種は乳がんや子宮がんの割合が多かった。しかし, 多くのがん種を網羅しており, 本研究のデータは, がん治療と就労に関する意見を広く反映していると考ええる。

本調査では, がん診断後から離職までの時間には, 性差があることが示された。従って, 男女ごとに, がん診断後から離職までの時間に対する関連要因を調べた。その結果, 男女ともに, 化学療法を受けた者, がん診断時の雇用形態が派遣・パートであった者は, がん診断後から離職までの時間が短いことが示された。女性に特化した関連要因として, 手術を受けなかった者, 診断当時の職場に産業保健スタッフがいない者は, がん診断後から離職までの時間が短いことが示された。

本研究で示された, がん診断後から離職までの時間に関連する要因は, がん診断後の離職予防を目的とした臨床現場でのアセスメント項目とし, 院内外の資源につなげることが期待される。

E. 結論

がんの診断時に就労していた916名の成人がん患者を対象に, がん診断後から離職までの時間に関する要因を, 男女別に解析した。それらの結果は, 病院における就労支援プログラムの開発のための貴重な基礎資料となろう。

平成 27 年 10 月

病気と仕事についての無記名アンケート調査

国立がん研究センター中央病院
同 がん対策情報センターがんサバイバーシップ支援研究部

この調査は、現在国立がん研究センター中央病院で治療をうけている20歳以上の方で、診断時にお仕事をされていた方を対象に、就労の状況や、職場の環境、治療とお仕事を両立するために必要な情報やサポートについてお話しし、今後当院での就労支援プログラムの開発に役立てるものです。

お忙しいところ恐れ入りますが、調査趣旨をご理解いただきまして、是非、みなさまのご経験やご意見を聞かせください。何卒調査へのご協力をお願いいたします。

現在精密検査中の方や、診断時にお仕事をされていなかった方(学生、専業主婦(主夫)など)はご回答いただく必要はありません。お手数ですが、アンケートはそのまま1階ロビー待合室の回収箱に投入してください。



あなたご自身についてうかがいます

問1 あなたがお生まれになった年と月をお答えください。

大正
西暦・昭和 ()年 ()月
平成

問2 性別をお答えください。

1 男性 2 女性

問3 現在のお仕事の状況をお答えください(○は1つ)。

1 正社員 4 パート・アルバイト 7 その他
2 派遣社員、契約社員 5 学生
3 自営業/自由業 6 無職(専業主婦/主夫を含む)

問4 最後に卒業した学校をお答えください(○は1つ)。

1 中学校 3 専門・専修学校 5 大学・大学院
2 高校 4 短大・高等 6 その他()

問10 診断当時あなたが働いていた会社のおおよその従業員数をお答えください(○は1つ)。

1 50人未満 2 50人~499人 3 500人~999人 4 1000人以上

問11 診断当時、あなたには扶養家族がいましたか。

1 いた 2 いなかった

問12 診断をうけて、あなたはお仕事のことを心配になりましたか。

1 とても心配になった 2 やや心配になった 3 心配ではなかった 4 全く心配ではなかった

問13 当院での診断~現在に至るまでの間、あなたがお仕事に関する悩みを抱えているかどうかについて聞かれたことがありますか。

1 聞かれたことがある 2 聞かれたことがない

問13で「1」と回答された方へ

問13-① あなたのお仕事に関する悩みについて尋ねた人を、次から選んでください(○はいくつでも)。

1 医師 4 リハビリの専門スタッフ 7 心理ケアの専門スタッフ
2 看護師 5 栄養士 8 その他
3 薬剤師 6 ソーシャルワーカー

問13-② あなたは、その悩みや心配ごとを病院スタッフに相談しましたか。

1 相談した 2 相談しなかった

問13-②で「1」と回答された方へ

問13-③ あなたの悩みや心配ごとの軽減に役立ったと思いますか。該当箇所に○をつけてください。

Table with columns: 相談した人, 1 そう思う, 2 少しそう思う, 3 あまりそう思わない, 4 全くそう思わない. Rows include 医師, 看護師, 薬剤師, etc.

<ここから>2つ以上のがんの診断を受けている方は、お仕事にもっとも影響した病名についてお答えください。

問5 今まで診断を受けた中で、お仕事にもっとも影響した病名に○をつけてください(○は1つ)。また、その病名が診断された年と月をお答えください。

Table with columns: 病名, 診断年・月. Lists various cancer types like 結核癌, 口腔・咽頭がん, etc.

問6 あなたが受けた治療をお答えください(○はいくつでも)。

1 手術 3 化学療法(抗がん剤治療) 5 その他
2 放射線治療 4 ホルモン療法

問7 病期(ステージ)をお答えください(○は1つ)。

1 I期 3 II期 5 わからない
2 II期 4 IV期

問8 再発のご経験はありますか?

1 ある(その時期を教えてください。西暦・平成 年 月)
2 ない

問9 診断当時の、あなたのお仕事の状況をお答えください(○は1つ)。

1 正社員 4 パート・アルバイト 7 その他
2 派遣社員、契約社員 5 学生
3 自営業/自由業 6 無職(専業主婦/主夫を含む)

問14 あなたは、がんと診断されたことを職場関係者に伝えましたか。

1 伝えた 2 伝えていない

問14で「1」と回答された方へ

問14-① あなたの仕事の課題の解決に役立ったと思いますか。該当箇所に○をつけてください。

Table with columns: 伝えた人, 1 そう思う, 2 少しそう思う, 3 あまりそう思わない, 4 全くそう思わない. Rows include 上司, 人事(総務)担当者, etc.

問15 診断当時、あなたに職場に産業医・保健師・看護師はいましたか(○は1つ)。

* 産業医とは、企業に所属して従業員の健康管理を行う医療者のことです。
1 いた 2 いなかった 3 わからない

問15で「1」と回答された方へ

問15-① あなたは、がん診断後の働き方について、産業医・保健師・看護師に相談したことがありますか。

1 相談したことがある 2 相談したことがない

問15-①で「1」と回答された方へ

問15-② 相談したことは、役立ったと思いますか(○は1つ)。

1 そう思う 2 少しそう思う 3 あまりそう思わない 4 全くそう思わない

問16 診断時の年収から現在の年収の変化についてお答えください(○は1つ)。

1 年収が下がった(具体的には:診断時の年収から 割減)
2 年収が変わらない
3 年収が上がった(具体的には:診断時の年収から 割増)

問17 診断時からのお仕事の変化についてお答えください(○は1つ)。

1 同じ会社で働き続けている(または 同じ自営業を続けている)
2 退職して、再就職した(または、自営業を廃業して別の仕事を始めた)
3 退職して、再就職していない(または、自営業を廃業してそのまま)
4 その他

退職した方についてうかがいます。

問18 診断時のお仕事をやめたのは、いつですか。

西暦・平成 ()年 ()月

問19 お仕事をおやめになったのは、どのタイミングでしたか（〇は1つ）。

| | |
|-------------------------------------|--------------|
| 1 がんの疑いが出たとき～診断までの間 | 6 いったん復職したあと |
| 2 がんの診断が確定したとき | 7 再発したあと |
| 3 診断後、最初の治療を待っている間 | 8 その他 |
| 4 最初の治療中 | 〔 〕 |
| 5 最初の治療を終えてから当初予定していた復職までの間（休職中をきむ） | |

問20 どのような理由で退職を決めましたか（〇はいくつでも）。

| |
|---|
| 1 職場に迷惑をかけたくなかったから |
| 2 がんになったら気力・体力的に働けないだろうと予想したから |
| 3 治療と仕事を両立する自信がなかったから |
| 4 職場から支援が得られないだろうと思ったから |
| 5 実際働いてみて、体力的に無理だったから |
| 6 実際働いてみて、精神的に無理だったから |
| 7 実際働いてみて、通勤の時間が確保できなかったから |
| 8 実際働いてみて、職場から支援が得られなかったから |
| 9 職場から退職をすすめられたから |
| 10 病気やけがで会社を休んだときに受けられる手当などが切れるタイミングだったから |
| 11 家族に退職をすすめられたから |
| 12 主治医に退職をすすめられたから |
| 13 再発がわかったから |
| 14 仕事より優先したいことがあったから |
| 15 人生観が変わったから |
| 16 病気以外の理由（例：定年など） |
| 17 その他（ ） |

問21 ぶりがえてみて、退職に至るプロセスについて、現在あなたはどのくらい納得していますか（〇は1つ）。

| | | | |
|---------|--------|--------------|-------------|
| 1 とても納得 | 2 やや納得 | 3 あまり納得していない | 4 全く納得していない |
|---------|--------|--------------|-------------|

5/8

次のページにお進みください

問25 あなたは、お仕事に関する困りごとについて個別相談を利用してみたいと思いますか（〇は1つ）。

- | |
|---------------------------------|
| 1 すぐに個別相談を利用したい |
| 2 すぐには利用しないが、必要に応じて個別相談を利用してみたい |
| 3 個別相談には興味がない |

問26 当院では、治療と仕事をより楽に両立できるように、病院内で受けられる支援プログラムを検討しています。どのような時期に、どのような情報・支援があればよいと思いますか（〇はいくつでも）。

◆記入方法は、以下の例をご参照ください

| | 診断された時 | 診断から長初の治療までの間 | 長初の治療から復職までの間 | 復職後 |
|---------------------------------|--------|---------------|---------------|-----|
| 例：情報・支援の内容 | ○ | ○ | | |
| 1 入院日や入院期間の見込み | | | | |
| 2 自分の治療から予想される、仕事に差し支えそうな副作用の情報 | | | | |
| 3 副作用症状への対応方法のヒント | | | | |
| 4 職場に病気を説明するときのヒント | | | | |
| 5 職場に配慮を頼むときのコツ | | | | |
| 6 治療にかかる医療費の見込み | | | | |
| 7 医療費・生活費の支援制度の情報 | | | | |
| 8 治療スケジュール（治療日や通院頻度など） | | | | |
| 9 家事支援や子育て支援の情報 | | | | |
| 10 治療と仕事に対する、専門家の個別相談 | | | | |
| 11 似たような治療を受けた人の職場復帰の体験談 | | | | |
| 12 その他（ ） | | | | |

次のページにお進みください
（次が最後のページです）

7/8

ここからは全員の方へうかがいます

問22 次の支援制度について、お聞きになったことがあるか教えてください。また、各制度について、ご利用されたことがあるかも教えてください。該当箇所〇をつけてください。

| | 聞いたことがある | 利用したことがある |
|-----------|----------|-----------|
| 1 高額療養費制度 | | |
| 2 傷病手当金制度 | | |
| 3 医療費控除 | | |

問23 問22で回答した支援制度は、どこからお聞きになりましたか（〇はいくつでも）。

| | | |
|---------------|---------------|-----------|
| 1 医師 | 6 ソーシャルワーカー | 11 自分で調べた |
| 2 看護師 | 7 心理ケアの専門スタッフ | 12 その他 |
| 3 薬剤師 | 8 家族 | 〔 〕 |
| 4 リハビリの専門スタッフ | 9 友人 | |
| 5 栄養士 | 10 他の患者/患者会 | |

当院では、医療費、傷病手当金などの社会保険、職場復帰後の悩み、いったん職場をおやめになったあとの職探しなどについて、相談員、看護師、社会保険労務士、ハローワークスタッフなどが無料相談に応じています。

問24 あなたがご存じだった、当院のサービスを次の中からお選びください。また、各サービスについて、ご利用されたことがあるかも教えてください。該当箇所〇をつけてください。

| | 聞いたことがある | 利用したことがある |
|----------------------------------|----------|-----------|
| 1 がん相談支援センターの相談員による、医療費や生活費の個別相談 | | |
| 2 がん相談支援センターにおける、就業関係資料の配布 | | |
| 3 社会保険労務士による、社会保険や働き方などの個別相談 | | |
| 4 ハローワーク職員による、職探しの個別相談 | | |
| 5 看護師による、「よりみち相談」 | | |
| 6 がん相談支援センター相談員による、「お仕事サポート教室」 | | |

6/8

問27 がんの治療と仕事の調和について、現在お困りのことがありましたら、ご自由にお書きください。

問28 あなたにとっての「病気と仕事の両立は」？ ぱっと思い浮かんだことをご自由にお書きください。

以上で質問はすべて終了です。

ご記入が終わられたアンケートだけを、1階ロビー待合室の回収ポストにご投函ください。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。



8/8